

1.技 術	2.3 工業用水に関する調査（合理化を含む）
2.事 業 名	2.3.18 業種別水使用合理化調査（H27）
3.キーワード	水使用、標準化、工業用水合理化
4.目 的	本調査は、社会情勢等の変化を踏まえ、各業種における水の使用実態分析を行い、水使用合理化の可能性とその方策を検討する際に必要な基礎資料を整備することを目的として実施する。
5.内 容	平成 27 年度においては、水使用合理化事例等、及び新しい水使用に係る動向について、過去の調査結果、文献・資料等調査ならびに訪問調査を実施した。
6.成 果	<p>経済産業省の工業統計表より、全淡水使用量が 200 万 m³/日以上 of 11 業種を選定した。11 業種の合計で、全製造業に対し新水補給水量で 94.6%、回収水量で 98.1%を占め、両者を合わせた全淡水使用量で 97.4%を占めていた。</p> <p>これら対象 11 業種について、各業種の複数の事例の用排水状況及び水使用合理化方法について調査・解析し、同業種ばかりでなく他業種においても参考となると考えられる一般的に応用可能な例を、業種ごとの用排水事例のフローシートとして示した。</p> <p>一方、水使用合理化に係る新しい動きとして、工場での製造工程において使用する水を対象とするにとどまっていた従来の水使用合理化の考え方と異なり、ライフサイクルに焦点を置いた取り組みについて取りまとめた。</p> <p>また、世界的な水問題への関心の高まりを背景に、水使用合理化の方向性を総合的に水に関わる環境影響の削減へとつなげていくことが求められ、水使用合理化の概念自体が社会情勢とともに変化してきていることを示すとともに、同観点に基づいた、水の評価に特化した「ウォーターフットプリント」が国際規格化され、ますますその重要性を増していること。また、気候変動の適応策に関する評価手法としての活用が検討されていることを明らかにした。</p> <p>水分野の国際標準化活動も近年活発化しており、水の効率管理や水再利用などの水使用合理化に関係する規格開発について取りまとめた。</p> <p>環境の側面からみれば、水使用合理化は新たに水源を創出することと同義であると捉えることができ、水リスクの大きな地域にとってその重要性は格段に増加し、工場や地域における水使用合理化の取り組みが適正かつ端的に評価されるシステムや評価指標の必要性が明らかになった。</p>
7.参 照	(公財)JKA の補助事業